

働く、遊ぶ、育てる……東京の暮らしやすさを検証!

¥300
特別価格
suumo.jp

都心に住む

by **SUUMO**↑

Ⅲ
2019

見る、触れる、感じるうらおい
緑と暮らす都心

三井不動産レジデンシャル&三菱地所
マンションブランド案内

TOKYO STORY
坂の記憶 播磨坂

〈特別付録〉



ミニドキュメント
ケース

住みやすさから考える
トーキョーの
世界価値
とは?



この本は
リサイクルできます

RECRUIT

掲載されている内容についてのお問い合わせは
読者ホットライン ☎0120-305444

専門家が提唱する
緑を感じる
暮らしとは……



甲斐徹郎さん
チームネット 代表取締役
マーケティング会社を経て、1995年に環境共生を専門分野とする住まいづくりおよび街づくりのマーケティングコンサルタント会社「チームネット」を設立。一般市民を対象に環境共生手法の普及啓発活動を行っているほか、環境共生を事業戦略として企業に提案している。著書に「自分のためのエコロジー」(筑摩書房)、「まちに森をつくらせて住む」(OM書房) など



甲斐さんが手がけた環境共生型コーポラティブハウスの例
右/樺ハウス (世田谷区)。樹齢250年の樺を中心とした庭を共有価値にしたプロジェクト。太陽の熱や光、風などを住まいに取り込む「パッシブデザイン」を組み入れている
上/風の杜模型 (大田区)。明治の庭園を次代に継承するプロジェクトで、現在の甲斐さんの住まいがある



複層的に重なる緑は
目にも体にも心地よい

住まいと緑の関係について、「環境共生型住宅」を提唱する甲斐徹郎さんは次のように話す。
「快適さ、環境、コミュニティ。そのどれにおいても、緑は欠かせない要素です。私のいう環境共生とは、自分のための心地よさを追求することを目的に、その手段としてエコロジーを使いこなそうというものです。そして、緑は特に優れた手段なんです」
まず、体を感じる快適さ。

「暑い、寒い、気温だけではなく、体感により決まるもので、体感には自分の身体と外部状況との関係に左右されます。その関係をどうするか。例えば、緑は天然の空調装置となります。住戸南側に樹木やツル性の植物を這わせ、北側に大きな樹木を配すれば、日射による熱が遮られ、蒸散作用によってつくられた冷気を風として室内に入れることで、夏でも涼しく過ごせます」。クーラーの風より、天然の風のほうが断然体に心地よい。それがつまり体感だ。かつ、こうした緑が住戸からマンションの敷地へ、さらに、敷地外の街へと連続していることが大事だという。環境の豊かさである。
「緑が複層的に重なることで風の質はさらに良くなり、風景としても非常に美しい、奥行きのあるものになります」

緑があることで緩やかに
人と人の関係性がつくられる

「そもそも、住まいの価値は敷地内だけで完結しません。豊かな環境を創出するために、まず、地域の緑の価値を見直し、それを住まいに生かすことを考えるべきでしょう。土地のポテンシャルを読み解くことが第一で、住宅プランはそれにぶら下がるもの。公園や屋敷林などの緑を借景できる立地はそれだけで大変な価値といえます」
一方で、敷地内や住戸の緑は人と人との関係性をもつくり出す。

「人は心地よい場所に自然と集まります。無理にイベントを計画するより、緑があつて風が通る心地よいたまりを敷地内につくることで、そこに出会いが生まれるでしょう。美しい中庭や見事なシンボルツリーなども、住人共有の財産として誇りになります。また、外廊下やバルコニーの緑は目隠しとなり、プライベートを緩やかにコントロールしてくれるでしょう」
緑、すなわち環境は、暮らしの価値を形づくる骨格ともいうべきもの。「かつ、地域環境は時間軸のあるものですから、昔と今、そして次世代とをうまくつなげていく工夫も大事。これらを総括して、緑のデザイン、風のデザイン、風景のデザインが考えられたマンションなら、真の意味で快適な暮らしが送れるでしょう」



1.天井に取り付けたシーリングファンで風の流れをデザインする 2.事務所の入り口。木々に囲まれた建物がある
3.吹抜けて、垂直方向に光と風を通す工夫 4.事務所を構えるのも自身が手がけた「経堂の杜」。窓の外にはもっちりん緑 5.自宅(「風の杜」)のバルコニーには緑のカーテン。夏涼しくする天然の空調装置だ

